

座談会 サイクリングの楽しみ方



と き 二月十三日

ところ 末広町久保田

ひとたち 萩原 慎一

鳥山 新一

山本 秀男

司会 今井 彬彦

うし、鳥山さんは理屈の上でね……。
鳥山 理屈の上でねとは……。(笑)。
今井 その理屈の上で(笑)……楽しみは
こうなんだとわりきつっているような気がす
るんです(笑)。

私はこうして楽しんでいる

で、はじめに萩原さんにお聞きしたいの
ですが、何かこのことで考えていることが
あるかということなのです。私はこういう
ことをやっているのだと、他の人は知らな
いが私はこういう楽しみ方をしているんだ
ということ聞かせてほしいんですが……

萩原 結論が出ちゃうじゃないか(笑)

鳥山 そうだな、結論をだしてそれに至
る過程を考えようというわけだな。

萩原 (首をかしげながら) どういう順
序で説明すればいいかな。

今井 今日このテーマは「サイクリングの
楽しみ方」ということなのですが、なぜこ
れを考えたかという点、色々サイクリング
界の状況を見たり聞いたりしているのです
が「サイクリングの楽しみ方」というのが
はつきりしていないし、又やっている人も
安外知らないんじゃないかという気がする
のです。そこでどういふ風にみんなが考え
ているかを調べたのですが、やはりよく分
らないのです。そこで、ではその楽しみ方
について話合う機会を持つのがいいのでは
ないかと思つたのです。ここで結論を出す
のではなく、こういう方法もある、あのよ
うな方法もあるということを考えていくと
面白いのではないかと、といった座談会にし
たいと思います。

今井 何か萩原さんの中に、おれはこう
やつて楽しんでいるんだということがあ
るに違いないのです。一般の今始めた人達と
違つてとにかく二十何年やっているわけ
ですから、又方々へ出かけられた話を聞いて
も、そこに何かひとつの線があるような気
がするのです。それが意識されているかと
うかということは問題なのですがね。こう
いう機会に恐らくそれらを整理して話して
もらえるのではないかと思うんです。

萩原 そうですね、つきつめて考えてい
くと僕等の楽しみ方は旅ですね。旅をする
気持というか、旅の雰囲気を楽しむことに

転車で行けるコースを探し求めているので
す。
今井 その点でま確かに……



萩原さん、鳥山さんを見ていて、萩原さんは少なくとも私が見るところでは一応楽しみ方を自分で考えてやっているように思

うかというところは問題なので、萩原さんという機会に恐らくそれらを整理して話してもらえないかと思うんです。

萩原 そうですね、つきつめて考えていくと僕等の楽しみ方は旅ですね。旅をする

転車で行けるコースを探し求めているのです。

気持というか、旅の雰囲気を楽しむことに落つくのではないのでしょうか。その旅の手段は色々ありますよ、又どんな手段にしろその中に旅というものが色々の形に

今井 その点では確かに萩原さんは一貫しているんですね、例えば、とにかく背負つても行つて山の向う側で走ろうということはそれからきているわけですね。

んでいるのではないのでしょうか。サイクリングという面から云えば、自転車というものは僕にとつては旅するための一つの手段であると思えないことはないと思うのです。結局、旅をしたいというのが一番の願

萩原 そうですね、それに僕の今までの旅の履歴というものが山から出発しているんですね。自転車に乗る前には山をやつていたから、山に対する郷愁があるのですよ。だからいかにして自転車と山とを結びつけるか、山というものを含めたサイクリングをどうやったらできるかということを考えてコースを探しているのです。山と自転車なら、山はどうしても担ぎ上げなければならぬし、その向うで走つて楽しいということを含めたコースということになるのですよ。

今井 旅というと、これは大体、知らないところを見たいという好奇心と興味ということなのでしょうね。

今井 ところで、鳥山さんはどうですか、あなたも「楽しみ」をやつておられると思

今井 それで自転車を「歩く」ということと換えることはしないのでしょうか？

鳥山 僕の考え方は、萩原さんが自転車以前に山をやつていたのに比べて、僕の場合は最初のとっつきから自転車をやつたわけなんです。そこでツーリングをやる前はとにかく乗つて走りまわるといことなんです。ツーリングをやるようになってからも自転車でなければ味わえない楽しみ、他の乗物で行つたのでは味わえない良さ、別の言葉で云えばサイクリングだけの楽しさを根底においた「楽しみ方」なんです。とにかく自転車で走つてこそ面白味がある

萩原 そりや、そうですね。やはり見知らぬところに行きたいという好奇心を満足させるために出かけるということですね。

今井 目的によつては歩く方が有利な場合には歩きますけれど、自分がサイクリングをやっている以上、サイクリングに有利な場所を先に探すわけですよ。

今井 ああ、そうか……

萩原 だからサイクリングで行くことになるんですよ。もし歩く方を主体にやつていけば、自転車で行くより歩む方のコースを先に探しちゃうわけですよ。ですから自

萩原 だか、サイクリングで行くことになるんですよ。もし歩く方を主体にやつていけば、自転車で行くより歩む方のコースを先に探しちゃうわけですよ。ですから自

萩原 だか、サイクリングで行くことになるんですよ。もし歩く方を主体にやつていけば、自転車で行くより歩む方のコースを先に探しちゃうわけですよ。ですから自

萩原 だか、サイクリングで行くことになるんですよ。もし歩く方を主体にやつていけば、自転車で行くより歩む方のコースを先に探しちゃうわけですよ。ですから自

萩原 だか、サイクリングで行くことになるんですよ。もし歩く方を主体にやつていけば、自転車で行くより歩む方のコースを先に探しちゃうわけですよ。ですから自

ということが主体ですね。

今井 具体的に、自転車でなければという現実の面白味はどういう場合なのか。鳥山 それは分り易い例をとつてみると



何もバスで行けるところをわざわざ「自転車で行かなくてもいいわけなんです。しかし自転車で行くということは自分の肌に空気が触れるという、要するに都会から逃げだして自然の懐に帰るわけなんです。話が一寸それるかもしれないけれど、サイクリングが都会地ばかりを中心にしてるのは経済的な理由ばかりではないと思うんです。地方とか山の人はいつもその自然の中でいい空気に触れているわけなのです。この間の山本君の「小岩井農場」ではないが、ああいうところに住んでいれば少しも事あらたにそうは感じないわけなんです。この頃の自動車ドライブにしろ、二時間あれば箱根の山の上へ行つてしまふ、そこでメシを喰つたりしても、それでは一向に自然に帰るという気がしないんだ。

山本 「ペダルを踏むこと」は小さい頃からやつていたにもかかわらず、自転車は本当はそういうものではないということをお教えてくれたのもツーリングクラブだし、それから「長崎県、長崎市」

どれだけの努力をしたから、どれだけの距離を走つたとか、高さにあがつたということとでなく、本当の空気にじかに触れるということが肝心ですよ。「旅」と云えば普段知らないところへ出かけるという、要するに普段の自分をとりまいてる環境から逃げ出すことだな、まあ逃げ出すことは悪いことかも知れないが、実は知識にしろ、景色にしろ自分の触れていないものに触れてみるということですね。汚れた都会の空気が逃げ出すことだと思ふのです。ただ人によつては考え方は違いますよ。場合によつては満員の汽車でもバスでもすしづめで窓をしめきつたまま行つて、宿屋でドンチャカやつて楽しい人もいるだろうし、色々ですよ。やつぱり「旅」に出たいというのは、毎日のつとめからぬけ出して自然にあがれるということ、その空気に触れるということですね。

それが、オートバイだつたら一緒に行けばほこりを浴びるばかりで話すらもできない、自動車では話ができるが空気にじかに触れられないわけですよ。もつとも手近かな例として、自動車で行く場合にはとつても手の汚れが気になるのです、つまりほこりつぽくて汗くさくなる。ところがサイクリングの場合はそういうことが全然気にならないのですよ。実質的にはもつとよこれているのがね。それより先にいい空気が自分の頬をなでてくれるという喜びの方が大きいのですよ。つまりオートバイにしろ、自動車にしろ、自転車にしろ各々全

山本 「ペダルを踏むこと」は小さい頃からやつていたにもかかわらず、自転車は本当はそういうものではないということをお教えてくれたのもツーリングクラブだし、それから「長崎県、長崎市」

く違つたカテゴリを持つていっているんですね。だから自転車であればということとを根底において、ツーリングならそれで汗をながして苦労してでかける、スピードでなら丸タイヤでパンクとばしてやると、まあ何もそんなに無理してとばさなくてもと云うが、これには時期があると思ふんだ。高校時分だと精一杯自分のエネルギーを発散させたいという気持があるんだね、僕もよく「ばしたもんだが、何もツーリングとロードレースが両立するかしらないかということとでなくて、人間の本性というか、何と云うかな？、きつと何かそこにあると思ふんです。自分の力であるとか力一杯走つてみるとかという喜びといったもので、つとめていくと、人間の原始的な姿に帰るんじゃないかと思ふんですがね。



今井 山本君の場合はやつぱり「旅」と

山本 僕はね、あのテーマがでた時から

山本 「ペダルを踏むこと」は小さい頃からやつていたにもかかわらず、自転車は本当はそういうものではないということをお教えてくれたのもツーリングクラブだし、それから「長崎県、長崎市」

色々考えたのだが、やはりサイクリングの



一番の楽しさは「ペダルを踏むこと」だと思ふのです、具体的に云うと夜でも何でもいいんです、あの最初のスタートの気持の良さは乗つたことのない人には分りませぬね。スーッと出ていくあれを味わいたくて夜でも引き出して乗るといふ、乗つてから先どうするかということの問題になるのですがね、それだけでは、今で云う「サイクリング」という言葉は通用しないと思ひます、これはまあ、広い意味での「サイクリング」ということですよ。とにかく「ペダルを踏むこと」の面白さを教えてくれたのはサイクルツーリングだと思ひます。これは間違いない事実ですよ。

今井 「教えてくれた」といふのはどういう意味なのか？

山本 ツーリングがあつたからペダルを踏むことを覚えたということですね。

鳥山 レースをやつて「ペダルを踏むこと」を学んだのではないということだな。

山本 「ペダルを踏むこと」は小さい頃からやつていたにもかかわらず、自転車は本当はそういうものではないということをお教えてくれたのもツーリングクラブだし、それから「長崎県、長崎市」